

富山薬窓会首都圏支部

目 次

支部長ごあいさつ	(55、43年卒) 柿崎 直和	1
今年の話題提供「シガテラ食中毒を体験して」 ..	(56、44年卒) 横山 司甫	2
本部総会に出席して	柿崎 直和	2
エーザイ研究開発の思い出	(58、46年卒) 村上 学	3
最近の病院薬局事情	(57、45年卒) 真野由比子	4
100字通信〈1〉		5
写真紀行「ランタン谷トレッキング」	(48、36年卒) 中嶋 啓	6
桔梗会便り	(44、32年卒) 岡西 澄子	7
ゴルフクラブ便り	(55、43年卒) 柿崎 直和	8
100字通信〈2〉		10
平成18年度 支部年会費納入者一覧		12~14
平成18年度 支部活動報告		15
首都圏支部資産状況		15
平成18年度会計報告、平成19年度予算(案)		16
編集後記		17



勉強好き、議論好きの 薬窓会DNAを受け継いでいきましょう

首都圏支部長(55、S43年卒) 柿崎直和

昨年はとても寒い冬、そして今年はあまりにも暖かい冬でした。桜も、予想を超えて早く開花しました。みなさまは、短い冬と早い春をいかがお過ごしになられたでしょうか。

支部長に就任してからアツという間に2年目が過ぎていきます。支部活動も目覚ましくは進められず反省しきりですが、今年度総会のご案内を差しあげる時期になりました。

昨年度、母校に開設された、国内薬学部でも有数の寄付講座「薬学経済特講」において、『エコ製薬企業は栄える』というタイトルで、製薬企業の環境対策を中心に講義を担当する機会を得られました。今年度は、少し幅を広げて、『製薬企業のCSR(企業の社会的責任)』をテーマに講義させていただきます予定です。

折りしも、当支部の基本財産となっている「株券」の母体企業である「北陸電力(株)」の志賀原発1号機の臨界事故隠し事件が報道されました。これまでに支部役員を経験された方々は、この報道におそらく“もっともビックリした人々”といえるのではないのでしょうか。諸先輩から営々として引き継がれてきた虎の子の財産である株券が、何しろ一日にして、100円も目減り(値下がり)してしまったのですから。

富山県有数の大企業が惹き起こした(そして、この事件が引き金となり、東京電力や東北電力も同様の事故隠しをしていたことが発覚しました)CSRに反する行為として、身近かな話題ですし、今年の講義では柱の一つとして考えているところです。

業界内でも、抗インフルエンザ薬「タミフル」の関与が疑われる副作用と、関連する諸問題に関する報道を見ますと、業界の常識と社会一般の常識とのギャップがありますし、もはやCSRに関して鋭敏な企業・組織でないと生き残れないことを感じさせられます。もちろん、医薬品を管轄する厚生労働省とて、組織としてSR(社会的責任)を免れることができないのは当然です。

これまで、支部会員のみなさまが相集う機会に、数多く出席させていただいてきましたが、『薬窓会』の大きな特色として、きわめて勉強熱心であること、社会的話題に敏感なことが挙げられると思います。随所で幅広い話題に関して議論が沸騰した場面に遭遇しましたし、これからも続いていくことでしょう。これらの貴重なDNAを若い世代にもぜひ、受け継いでいただきたいものと考えています。

今年度の活動に対して、みなさまの大いなるご支援をお願い申し上げます。

今年のお話提供

シガテラ食中毒を体験して

(56、S44年卒) 横山 司 甫

もう4年前(03年6月)になるが、シガテラ食中毒を家族で患った。そのときの体験談を、首都圏遠久第50号(平成17年発行)に寄稿したので、ご記憶の方も少なくないと拝察する。その後判明したことも追加して、総会ご出席のみなさまにご紹介したいと思う。

シガテラ中毒はフグ毒と同様に、食物連鎖による海魚由来の食中毒である。日本では珍しいが、世界では自然の食べ物による食中毒の中で最も多く、年間2万人の人が罹っているといわれる。

毒性はフグ毒に比べると弱く、死亡率は数パーセントとされるが、症状の消失には1~2ヵ月かかり、長いと1年以上に及ぶ。私の場合、皮膚の違和感などでは、未だ治っていないのか、加齢のせいなのか、判然としないものがある。

とくに南の海で獲れた白身の魚は、気になるので食べないように気をつけているが、もともと細身だった体型がさらに細身になったまま戻らないなど、いまさらながら傷跡の深さに驚いている。

シガテラ中毒に関しては、薬学では縁が無いが、水産学では講義に出てくるそう。今、世界中の魚介類が食材として日本に入ってきており、また世界中に日本人が出かけていくので、新奇なものが食べられるのと同じように、未知の食中毒に遭遇する機会も増えている。

また、地球温暖化による影響も着実に増えているように思われる。地上では神奈川以西に生息する熊ゼミが年々東進し、海洋では水

温の変化による気象異常もあり、魚の住環境、魚類生息域ともに変化している。いずれにしても、シガテラ食中毒が東京で毎年何例かが報告されるのは、それほど遠いことではないだろう。

シガテラ食中毒の実体験を語るにあたり、食中毒の症状を低減させるにはどうすべきだったか、また、海産物による食中毒にはどのようなものがあるか併せて紹介したいと思う。

本部総会に出席して

支部長 柿崎 直和

3月23(金)、18年度薬窓会の本部総会に出席してきました。

事業報告や会計報告に関しては、例年通り、適正に行われていましたので省略させていただきます。

話題としては、①富山大学同窓会連合会への加盟が承認されました。昨年10月に、富山医薬大と富山大、高岡短大が統合され、8学部を擁する総合大学として新富山大学が誕生したのですが、それに伴って、卒業生同士も学部横断的に交流を深めたい……首都圏では、すでに経済学部(越嶺会)と工学部(仰岳会)、薬窓会との間で「五福会」をつくって交流してきています……、本部としても学内の各々の同窓会が大きく連帯して、大学の発展に寄与したいとの機運が高まりました。

そこで、経済学部同窓会の中尾哲雄会長(インテック(株)会長)から提案があり、7月25日に設立検討会が開催されました。検討会に先立ち、薬窓会本部から各支部に対してアンケートがあり、支部としてはこれまでの五福会の交流実績を踏まえて、設立賛成の意思表明をしております。検討会には松井竹史会長(56、

S38年卒)と府和隆子副会長(56、S44年卒)が出席されましたが、「本部に一任」を含めた「賛成」が7割以上を占めました。今回の総会で承認されましたので、本格的な設立に向けて加速するものと思われま

つぎに、②首都圏支部長を経験された斉藤正巳さん(37、S24年卒)が薬窓会の「名誉顧問」に推挙され、承認されました。斉藤さんは、ドラッグストア「セイジョー」(関東・東海地区に180店舗)の創業者で、多くの同窓生も社員として勤務しています。支部長時代には、同社の会議室をお借りして同窓会の幹事会を開催したり、案内状発送業務などを行ったものです。このような薬窓会および支部に対する大きな貢献と、これまでに同氏から大学に贈られた寄付金によって、平成9年から「斉藤正巳奨学寄付金」が運用されていますし、今般さらに、薬学部と和漢薬研究所の教育研究助成に2,000万円寄付されたことに対する感謝の意を表すものです。

また当日夕刻からは、カナルパークホテルにおいて、恒例の「卒業生による謝恩会」が開催され、参加してきました。今年度も、学部生99名、大学院生89名(前期69名、後期20名)が卒業を迎えました。毎年のですが、圧倒的な若い力を感じさせられます。近い将来、多くの卒業生が首都圏支部に入会されることを待っている次第です。

エーザイ研究開発の思い出

(58、S46年卒) 村上 学
エーザイ株式会社 医薬部

私が和漢研の渡辺和夫教授の「生物試験部門」を修了し、エーザイに入社したのは昭和48年(1973)、当時消化器のエーザイと標榜

していたものの消化器用剤はメサフィリンなどで売り上げ構成としては僅か6%(24億円)であったと記憶している。今では世界の売り上げで見ればパリエット、セルベックス等で1700億円(25%)である。

昨年、研究部門から医薬部へ異動、ボチボチ白秋の生活(インドでは林住期というそうです)を考え始めている。そんな折に原稿依頼の話があり、富山大学同窓諸氏の支援の中で研究活動ができたその思い出を書くことにした。

思い返せば、丸33年間も消化器関連開発研究に携われたのは幸せであったし、むちゃくちゃハードな生活(私生活は反省、未だに家族には頭が上がらない)と試行錯誤の苦しい毎日であったが、意外と楽しい思い出しか頭の中には残っていない。不思議なものである。

胃粘膜防御剤—セルベックス®

セルベックスの探索研究は、当時ノイキノン(代謝性強心剤CoQ10)の開発に社を賭けていた時であり、その中でプロダクトミックスのドサクサでイソプレノイドの抗潰瘍作用を調べだしたのがきっかけである。岐阜県の川島工園での初仕事であった。富大の大郷利治先輩(45、S33年卒)の指導の下、独自に開発したストレスモデルを用いて岐薬出身の当時若くかわいい女性と2人で夜遅くまで毎日スクリーニングをやった。組合からは毎月大変なクレームを頂いたものである。今彼女は名古屋で医師の嫁・母親として幸せな生活を送っていると聞く。

社内テーマリストから一時消滅した(忘れられた?)こともあったが、同じ研究室出身の藤崎秀明(63、S51年卒)らの応援を得て研究開始から6年で申請、翌1984年胃潰瘍治療剤として発売。最初の欧文論文は五十嵐俊二先輩(46、S34年卒)の指導を得ること

ができた。この一連の開発研究をまとめ、医科薬科大学の渡辺和夫教授の指導で博士号を頂き(乙7号)、家内と娘で授与式に出席。この時の思い出は一番印象に残るものである。さらに胃炎適応が追加され1995年には500億円の売り上げを記録した。こんな嬉しいことはなかった。でも今は苦戦!!

プロトンポンプ阻害剤—パリエット®

本プロジェクトは、1983年の筑波研究所開設後2番目のプロジェクトとなる。粘膜防御剤を有するエーザイの次戦略として酸分泌抑制剤を開発するために立ち上げたのがPPIプロジェクトである。セレンディビティーとカルチノイドの課題を背負っての船出であった。

開発コンセプトは、胃にやさしいプロトンポンプ阻害剤を目指すことにした。本テーマの推進は、社内プロジェクトの多くのメンバー(若林庸夫先輩(47)、S35年卒)が室長)はもちろんであるが、ここでも富山大学の竹口紀晃先生と前述の藤崎君が活躍した。

それはすさまじいまでの昼夜を徹する探索研究の毎日であった。Rabeprazoleを見出したが、何と0.1%の確率である。後のパリエットである。プロジェクト立ち上げから国内発売まで13年、2年後の1999年には欧米で発売、消化器領域での初の国際医薬品となった。

富山大学薬学部修了以来、富山大学の関係者と一緒になって消化性潰瘍治療薬に取り組めたことは本当に幸せであったと思う。今であったならばそう簡単には行きそうもない。留学生活も経験でき、すばらしい人達との出会いがあり、自分の研究生生活はホントにラッキーだったと思う。渡辺先生、竹口先生、並びに諸先輩に感謝するとともに、今後の同窓生の皆様のご活躍とご発展を祈りたい。

最近の病院薬局事情

(57、S45年卒) 真野 由比子

私の勤務する病院は454床(医師不足で実働病床が少ないのが悩みの種で2次救急指定だった小児科病棟も閉鎖)、地域の中核病院で急性期病棟を目指すには設備が古く中途半端、時代の流れに乗り遅れないことを願っています。さて、病院薬局は女性の職場で定時終了というイメージありませんか?当薬剤部では男女数はこの数年の間に逆転してしまいました。新規採用は男性・院卒優先です。採用時には「早く帰れるとは考えるな」と念を押します。最近入局した新人たちは5時過ぎから先輩薬剤師の病棟業務の指導(しごき?)を受け、彼らの冷たい視線を受けながら上司(私のこと)は7時過ぎに帰っていきます。

薬剤師の業務は「患者さんに安全で適正な薬物療法を受けていただくこと」に尽きると思っています。調剤そのものは昔と変わらないのですが、90%の外来院外処方箋発行と、院内システム化のおかげで調剤室は3名体制で、管理職以外は全員病棟担当薬剤師です。

長い移行期を経て、病院勤務薬剤師はチーム医療の中の「薬剤についての何でも屋」になってきました。長年処方箋での調剤が薬剤師の仕事でしたが、注射薬を含め今は薬剤に関すること何でもありで、大勢の病棟看護師さん(いわゆる7対1体制)に比べ薬剤師の数の少ないこと。入院患者さんへの服薬指導はほんの一部の仕事、最近は適正な薬物療法が行われているかとか、医療事故のないよう院内のリスクマネージメントも大きな業務になってきています。医療の進歩と製剤技術の進歩でリスクの高い薬剤が増えている注射薬の混合調整(特に抗がん剤)は、薬剤師がしなければと考えています。生身の患者さんという臨床の場で鍛えられた若い世代や始まった

ばかりの6年制の薬学部を卒業する薬剤師が医療の中でどのような時代を築いてくれるのか、活躍を期待しています。

100字通信〈1〉

⑳ 15年卒 須田 民三

本年10月88歳(米寿)になります。6年前より娘の保育園を午前中手伝っていますが、幼児は可愛いです。人年の裏側にぞっとすることがあります。午前中幼児との散歩は健康にプラスします。

㉑ 24年卒 山口 輝夫

仕事から離れて丸二年経過し、最近になって健康管理の難しさを痛感しています。永年つき合いの「50肩」は、日常の動きと比例して痛みが強弱し、年齢相応とは云え、現在尚日々努力を継続し、完全治癒に向け頑張っています。

㉒ 28年卒 眞船 恒雄

今年のアインクラブは東京当番で秩父祭り会館見学と長瀨ライン下を計画中一同心をこめて案内しようと準備中です。私の健康法1日1万歩、ボケ防止にPC、心の癒しにカメラを持って内外旅行を続行中。昨年は440万歩今年も頑張ります。

㉓ 28年卒 千原 秀夫

h.chihara@86.clion.ne.jp

私達富士大学薬学部第一回卒業生も今年卒後54年、年齢も大方が77歳の喜寿を迎えました。この節目の今年私達首都圏組が世話人となって秋に同期会を関東で開催の予定で目下計画と進行に懸命に取り組んでいるところです。

㉔ 30年卒 佐藤 正美

70代も半ばとなり、過ぎゆく時の速さにただただ驚いています。現在生涯研修を目途とする認定薬剤師講習を受講中ですが、在学中にはなかった基礎薬学、医科学、医療薬学、臨床薬学等幅広い内容で楽しく学んでいます。

㉕ 31年卒 安倍 弘

若い頃は先輩を追い越したいと思っていたが、年をとることは恐ろしい事で先ず忘れる事が多く特に外国語の本は辞書を必要とするありさまになってしまいました。自信のあるのは気力だけです。皆様お元気で。

㉖ 35年卒 車田 知之

三年前の夏、心臓の弁交換手術を受けて生き返った。今は地球の温暖化を心配しながら、マテリアルライフ学会のボランティアをしている。趣味は囲碁・ダンスと年一回の海外旅行。今年四月にスペイン・ポルトガル。

㉗ 35年卒 橋本 喜信

yh768.jp@yha.art.ne.jp

メロンの歴史の最初に出てくる五十嵐喜広は明治の初めに米国から、アスパラガスをドイツから日本に導入した25%のDNAを受け継いでいる実の祖父です。又社会福祉事業を欧米から導入し私財を投入して始めました。

㉘ 32年卒 高木 良造

昨年中国の山東省に行き、秦の始皇帝の命を受け不老長寿の仙薬を探しに、日本に来たと言われている徐福が船出をした場所「蓬莱閣」や、始皇帝と面会した「琅琊台」を見学し、始皇帝始め、歴代の帝王が封禪の儀を行った「泰山」に登って来た。

写真紀行

ランタン谷トレッキング

(48、S36年卒) 中嶋 啓

山登りの楽しみ方は100名山や200名山の頂上に立つこともその一つであるが、のんびりと高山植物や野鳥を眺め、地元の人と触合い、山容を眺めて一句捻ってみるのもまた別の楽しみ方である。大学1年の頃はワングルに所属していたが、寮にいた湊さん④、杉山さん⑥、赤羽さん⑥らに誘われていつの間にやら山岳部に移籍していた。退職後、山歩きを再開してみたいとの思いが強くなり、今では(財)日本万歩クラブに所属して街歩き、里山歩き、山登りのお世話をしている。人生経験豊富で元気なお年寄りに囲まれて、膨らんでいた下腹も多少しぼんできたような気がする。毎年秋にはネパールや中国の山々を眺めに出かけているが、去年は同期の熊木氏⑧、後輩の前田氏⑩、山岳部の後輩たち、各製菓会社の山仲間ら14名と、カトマンズ北方のランタン谷(1)を廻行してきた。この谷は広大なU字谷で左右には6,000m級の山々が連なり「花の谷」として世界的に有名で、「日本

百名山」の著者である深田久彌も詳細に紹介している。

3日目：カトマンズからゴラタペラまで大型ヘリで飛ぶ予定であったが、パイロットの奥さんが病氣入院との理由で飛ばず、ナガルコットの丘に登り7,000m～8,000m級ヒマラヤの山々を時のたつのを忘れて眺めた。

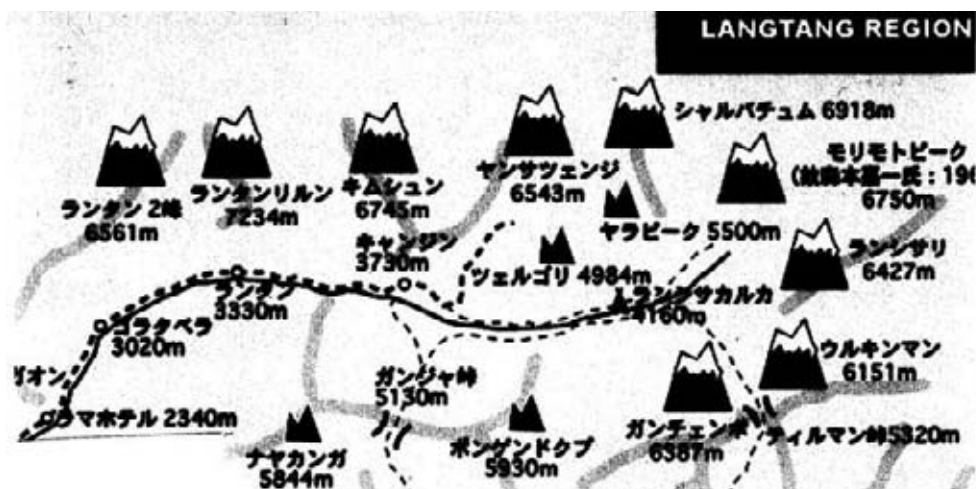
4日目：大型ヘリでゴラタペラ(3,010m)へ。日本人そっくりの子供達(2)と遊びながらランタン村(3,473m)に向かう。途中で女性一名に高山病症状が出現し下山。ランタンⅡやガンチェンボの前衛峰(5,913m)が姿を現し、



(2) ゴラタペラの子供たちと

夜空には星が満ち溢れ、雪山の上に凍り付いている。

5日目：U字谷の緩やかな道に沿って僧院のあるキャンジンゴンパ(3,840m)へ。この



(1) ランタン谷概念図



(3) キムシュン

辺りから各人程度の差はあるものの高山病症状が出始めた。

6日目：高所順応のため北側にあるタルチョピーク(4,200m)に登る。ビスターリ・ビスターリではあるが結構きつい。男性一名に高山病症状が出現し下山。頂上からの眺めは素晴らしく、ランタンリルン(7,246m)や三本槍のキムシュン(6,745m)が目前に迫る(3)。

7日目：最奥のヤク放牧地ランシサカルカへ(4,125m)。このルートには全く村人は住んでいない。ヒマラヤ巒の見事なガンチェンポ(6,367m)、双耳峰のランシサ・リ(6,310m)、その他の山々に囲まれ見飽きることはない。

8日目：キャンジンゴンパに引き返し、シェルパ、キチン、ポーターら29名と打上げ。16歳の女性ポーターは明るい性格で皆の人気者となっていた(4)。

9日目：ヘリが飛ばず沈殿。

10日目カトマンズへ。最近ではシェルパやポーターも煙草を吸わなくなり、山の上での



(4) 打上げパーティーで

禁煙は辛い!今年もジョムソン街道をチベット方面に向かう計画があり、今から楽しみにしている。

桔梗会便り

桔梗会からの近況報告

(44、S32年卒) 岡 西 澄 子

1978年に39～41回生の先輩達によって開始された桔梗会も29年目に入りました。ここ暫く会員数の変動がなく16名で頑張っています。

昨年は、近年ハイスピードで進歩著しい免疫学に苦勞しながら「シンプル免疫学」を3月に終了し、気持ち新たに、5月から「シンプル薬理学」に取り組んでいます。毎回、輪読担当者が関連する資料を集めて解説しています。私など皆さんの熱き向上心に感心するばかりです。薬学について勉強し直すとても良い機会と思っています。

毎年恒例になっておりますが、会員の佐藤和恵さんが、昨年もお世話くださりまして、油化学セミナーで「アンチエイジングフードの最前線」、「食感とうま味のニューフロンティア」など最先端のお話を拝聴する機会を得ました。毎日の生活に直結した貴重なお話でした。

又、4月には恒例の旅として三春の滝桜を観に出かけましたが、残念ながら桜花は2、3分咲き、しかし逞しい樹形に感動いたしました。翌日は、鶴ヶ城附近では大雨に、猪苗代湖附近では激しい雪に見舞われてしまいましたが、意気消沈の帰途に立ち寄った南湖公園では雨も上がり満開の桜に大満足して帰宅できました。桔梗会の旅にはいつも紅葉に雪、桜に雪とおまけが付いてくるようです。

新年会には、今人気の神楽坂でうどんすきを楽しんでから後、勉強するという熱心さです。

どうぞ勉強と共に情報交換の場として、いつでも覗きにいらして、ご意見をお寄せくださいますようお願いしています。

日 時／毎月第3土曜日
PM1：30～4：00
会 場／JR・東京メトロ南北線王子駅そば
北トピア
問い合わせ先／48回生 定留温子氏
TEL&FAX／0424-65-0206

ゴルフクラブ便り

第70回コンペ戦記

(2006年4月17日：月曜日)

葉窓会ゴルフコンペも回を重ね、ついに70回を数えました。春秋2回の開催ですから、35年間続いてきたこととなります。前回の懇親会で、メンバーのみなさんから、「記念すべき第70回は、泊りがけでやりましょう。千原さんもお招きして」というすばらしい提案が行われ、満場一致で決まっていました。千原さんとは、当会で知らぬ人はない④千原秀夫さんで、記録によれば、第14回から事務局を引き受け、以降第65回まで、26年間に亘って事務局を担当して下さった大功労者です。身体の故障で現役ゴルファーをリタイアされましたが、記念大会には馳せ参じてくださいました(金一封を頂戴し、感謝)。

交通の便や季節も考えて、北関東方面で探そうということにはなりましたが…、それこそ数え切れぬほどのコースがあり、幹事と事務局はサア大変!しかし、有能かつきめ細かな⑤石橋嘉夫事務局のサーチ網に「喜連

川(きつれがわ)CC」(栃木県さくら市)が浮上してきました。S56年、喜連川町は「町興し」で温泉発掘(地下1,200m)に成功しました。そこで、“温泉との相乗効果で心の開放をめざす、極上のゴルフライフを提供する”と銘打って、S62年に誕生したのが喜連川CCというわけ。お得な「宿泊パック」が用意されており、ここに会場を決めました。

平成18年4月16日(日)、電車組は宇都宮駅でほぼ全員集合、支線に乗り換えて10分ほどの氏家駅に到着です。昨年3月、いずれも足利氏ゆかりの氏家町と喜連川町が合併して「さくら市」となりましたが、まさに至るところに桜の名所があり、歴史も感じさせる町でした。クラブバスでの25分ほどのドライブ中にも、まさに満開の『早乙女の桜並木(両側に130本の回廊)』、『お丸山公園(300本!)』など、目を瞠る美しさでした。コースでも、もちろん満開の桜が出迎えてくれました。車組、電車組とも無事に受付を済ませ、懇親会までの時間にクラブハウス(ホテル)内の自慢のお風呂へ。そこにはナント!20人は楽に入れるほどの大露天風呂が待ち受けていました(夜は桜をライト・アップ)。

記念すべき第70回の懇親会は定刻に始まりました。料理は、地元の豊富な食材を取り入れたもので、メインが栃木牛のすき焼き。ボリュームも満点でした。

参加者21人。当コンペの初期に活躍された⑧須田民三さんと、千原さんが特別参加(懇親会のみ)で、“新人”も⑩下田力さんが参加されました。事務局長(⑨宮澤英雄さん)挨拶に始まり、会計報告を手早く済ませ、⑫宮崎時雄さんの発声で乾杯が行われました。「膝が痛いんだけど、医者に相談したら、ゴルフはやりなさいと勧められた」とのご挨拶に、一同爆笑と同時に「それは名医!」の合唱が起こりました。順次、参加者全員から近況報告を兼ねてごスピーチをいただきました。コー

スを下見に来られた方あり、プロにスイング・チェックを受けた方ありと、準備怠りない模範ゴルファーぶりが喝采を浴びました。席上配布された「第69回までの優勝者、開催コース一覧」の資料を見ながら、長い歴史の中の名場面や自分の戦績、また優勝回数を数えたりしつつ大いに盛り上がったことでした。

また、今回はハンディの見直し提案がありましたので、事務局で検討した結果、①会員の高齢化が進み、往年の名手たちもハンディを維持できていない現実があること、②前数回分のスコアを評価したものの、スコアのバラツキが大き過ぎて適正なハンディ算出がむずかしいとの判断で、「しばらくの間、『新しい基準(ダブルペリア)』でハンディを算出し、その後適正なハンディに格付けすることに決まりました。

旅の楽しみ、懇親会の後は有志一同で二次会へ(貸切状態)。新入会員の下田さんをトップバッターに、宮崎さん、伊藤謙治さん(㉔)、宮澤さん等々、ゴルフを上回るほどの自慢のノドを披露してくださいました。



翌17日(月)は快晴。少し風があり、肌寒いながらも最高のお天気に恵まれました。池とバンカーが戦略的に配置された(平たくいえば難しい)美しいコースを、元気いっぱいスタートして行きましたが、終わってみれば100を切ったのは㉔高木良造さん(ベスグレ)と、㉕柿崎の2人だけという結果でした。初

めてプレーするコースという方がほとんどだったこと、前日の雨のせいで、カップがきびしい位置に切られていたこと、グリーンが速かったことなどが挙げられます。“美しいバラには刺がある”のですよね。

途中休憩なしで回ったので、風呂には入らず、昼食を兼ねた懇親会と表彰式を行いました。ハンディを見直すために採用したダブルペリア方式でしたが、事務局の柿崎が期せずして連続優勝してしまう結果となりました。準優勝は㉖金知出さん、3位は㉗梅原弘さん、そして、BB賞は㉘村上則彦さんでした。

次回には現在の支部長杯(橋浦さん寄贈)の取り切り戦とし、新しい支部長杯が寄贈される(柿崎支部長から)ことが約束されました。(柿崎記)

第71回コンペ戦記

(2006年10月13日：金曜日)

「千葉」の名前を冠した千葉カントリークラブといえば、国道16号線沿いに梅郷、野田、川間の3コースを擁して、県内で名門中の名門。今回の葉窓会コンペは、広々としているのももちろん、レイアウトの美しさと挑戦意欲を掻き立てる設計で、プレーヤー人気が一番と目される川間コース(南・西同時スタート)でした。

例によって、当会のコンペは快晴、朝ゆっくりのスタートでもあり、順次コースに集合したのは女性2名(常連の布施米子さん：55回、S43年卒は、お嬢さまの結婚式前日ということで、さすがに不参加でした)を含めて20名。70回記念の前回コンペで、新しい支部長杯が支部長から寄贈されることが決まっていたので、今回は優勝カップの取り切り戦となりました。また前回から、ハンディキャッ

プを見直すため、しばらくの間「新ペリア方式」としていただきますので優勝のチャンスが広がり、みなさん大いに張り切ってスタートしていきました。

しかしさすがに名門コース、簡単には攻略させてくれず、スコアメイクに苦労しました。そんな中、当会有数の名手である小国益男さん(47回、S35年卒)が $43 \cdot 40 = 83$ という好スコアで文句なしのベスグロ優勝を飾りました。準優勝は、日ごろの練習成果が出た(地元ゴルフ場のオープンコンペに積極参加して鍛えているとの噂)都築正明さん(56回、S44年卒)でした。今回は宮崎時雄先輩(29回、S16年卒)が不参加でしたので、参加者の中で最長老の伊藤謙治さん(37回、S25年卒)がプレゼンターを務めてくださいました。また今回、“ワザあり”の実力を発揮して賞品をたくさん獲得したのは、竹腰時男さん(46回、S36年卒)、飛ばし屋に加え、小技も冴え、ドラコン2個、ニアピン1個、さらにスコアでも、小波賞($48 \cdot 47 = 95$)の栄誉に輝きました。なお、次回は平成19年4月13日(金)と決まりました。

100字通信(2)

④④ 32年卒 大杉光一郎

今年で卒業後50年を迎えます。半世紀を無事送ることが出来ました。なかには不幸にも故人となった人もいますが60名の方が50年を迎えました。今年の10月に富士に集い、再会をする楽しみがあります。50名の方とお逢いできることを喜びにしております。今回は19回目の会合です。

④⑤ 33年卒 古谷 隆

今年4月から住所が下記に変更になります
[神奈川県相模原市相原3-6-1
電話042-773-3811]

④⑥ 34年卒 川畑 耕祐

製薬会社を定年後スーパーの薬品部に管理薬剤師として勤務して早や10年経った。健康食品も取り扱っているが賞味期限が短いので期限切れにならない様に細心の注意をはらいチェックしている(不二家の二の舞に成らない様に。)

④⑦ 35年卒 籠瀬 信夫

薬売りを去年の週4日から、週3日に減らしました。代わりにジム通いを週2日から、週3日にしました。あとは変わらず孫とあそんでいます。

④⑧ 35年卒 市中 滋郎

お蔭様で2回目の術後から7年経過、無事に日々過ごしております。昨年、一昨年と、仕事以外の海外旅行を家内と楽しんで来ました。時々、下手なゴルフと写真を撮っています。

④⑧ 36年卒 裏木 健司
tfpbk965@yahoo.co.jp

昨年、妻と姉や弟の住むアメリカへ行き、通常のツアーでは経験できない現地の生活ぶりをじっくり見る事ができた。今年で70歳になるが、今年の多忙な生活を卒業して、のんびり世界旅行を楽しみたいと考えている。

④⑨ 36年卒 川上 惇
at-kawakami@blue.ocn.ne.jp

今年は雪不足でスキーヤー泣かせだった。いくつもスキー競技会が中止になった。幸いにも2月初旬にフランス・シャモニーで一週間のスキーができた。地球温暖化は確実に進み、氷河がどんどん後退している。おそろしいことだ。

④⑩ 36年卒 中嶋 啓
mn3f55@kjps.net

(財)日本万歩クラブで、街歩き、里山歩き、山登りのお世話をしています。運動不足気味の方はホームページ(manpo@gakken.co.jp)をご覧ください。是非、参加・入会下さいますよう。

④⑪ 36年卒 樋口 明彦
win-yabuki@nifty.com

老体に鞭打って調剤しています。

④⑫ 38年卒 野口 正喜
nk.3.ms.3.kyh@nifty.com

66歳になり、ドライビングスクールに行っています。今年の1月から毎日自由の身になりましたので、釣りとゴルフに精を出すつもりです。

④⑬ 38年卒 宮澤 英雄
hmmya@f2.dion.ne.jp

いまだに薬局でOTCのパートをしています。そろそろやめどきかなと思いますが、病態と薬理のことを解りやすく説明してあげることの喜びと満足感がある現状では、もう少しやってみるか、なんて迷ったりしています。

④⑭ H7年卒 市丸 朋美

何度も御連絡ありがとうございます。圏外へ引っ越したため、なかなか参加できません。ありがとうございます。

④⑮ H8年卒 水島 正明
masa-m@y4.dion.ne.jp

異動連絡ですがこちらのハガキで失礼します。昨年4月一杯でドラッグチェーンの(株)セイジョーを辞め地元の福井で7月からアイファー調剤(有)に勤めています。同封の振込用紙の首都圏支部の会費は今回は払わせていただきます。

④⑯ H9年卒 市丸 一

何度も御連絡ありがとうございます。圏外へ引っ越したため、なかなか参加できません。ありがとうございます。

職員 S45～58 渡辺 和夫
yiyi108@cnc.jp

お蔭様で元気です。四方漁港で覚えた堤防釣りを内房で楽しんでいます。2月に公式認定された認定薬剤師研修プロバイダーのシステム立ち上げに関与しました。新しい時代の薬剤師と共に歩むことに意義を感じています。

平成 18 年度 支部年会費納入者一覧

(総計 322 名)

※平成 18 年 4 月から平成 19 年 3 月
までに年会費を納入された方の一覧
です。

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
22	昭和	9	津森繁隆	37	昭和	24	水牧勝美	43	昭和	31	上野謙爾
23	昭和	10	山下正男	37	昭和	24	山口輝夫	43	昭和	31	落合信雄
25	昭和	12	加藤隆之助	37	昭和	24	大和宗雄	43	昭和	31	車田知之
25	昭和	12	須田俊郎	38	昭和	25	栗田泰至	43	昭和	31	富山和夫
26	昭和	13	太田賢助	38	昭和	25	飯塚 滋	43	昭和	31	古徳 治
26	昭和	13	竹沢富三	38	昭和	25	上野純一	43	昭和	31	細 信彦
28	昭和	15	岩崎光一	38	昭和	25	上塚 勉	43	昭和	31	久郷正孝
28	昭和	15	須田民三	38	昭和	25	熊谷隆司	43	昭和	31	本多 存
28	昭和	15	柳澤政隆	38	昭和	25	小西一光	43	昭和	31	山岸伸郎
28	昭和	15	渡辺良士	38	昭和	25	津田照明	43	昭和	31	脇田秀雄
29	昭和	16	内田晴孝	38	昭和	25	橋本人之	44	昭和	32	石原俊明
29	昭和	16	宮崎時雄	38	昭和	25	深井三郎	44	昭和	32	岩崎 朗
30	昭和	16	金子春雄	38	昭和	25	松井信政	44	昭和	32	大杉光一郎
30	昭和	16	高山 薫	39	昭和	26	大澤弥生	44	昭和	32	岡田和造
30	昭和	16	米屋清一	39	昭和	26	永森 肇	44	昭和	32	岡西澄子
31	昭和	17	前田政治	39	昭和	26	本郷 修	44	昭和	32	金森桂子
31	昭和	17	渡会春雄	39	昭和	26	米丸洋子	44	昭和	32	紙谷得子
32	昭和	18	石倉隆一	40	昭和	28	高瀬ミサ子	44	昭和	32	川村隆子
32	昭和	18	菅山順一	40	昭和	28	高橋重二	44	昭和	32	車田千秋
32	昭和	18	渡辺伸一郎	40	昭和	28	千原秀夫	44	昭和	32	鈴木芳子
33	昭和	19	岩崎 貢	41	昭和	29	上銘外喜夫	44	昭和	32	高木良造
33	昭和	19	浜田芳碩	41	昭和	29	北川喜章	44	昭和	32	高瀬清孝
34	昭和	20	織井文貞	41	昭和	29	基常弘晃	44	昭和	32	田村美智子
34	昭和	20	永井正之	41	昭和	29	志甫 正	44	昭和	32	永田邦夫
35	昭和	22	富岡穂一	41	昭和	29	諏訪利則	44	昭和	32	林 吉孝
35	昭和	22	野村哲夫	41	昭和	29	前川 昶	45	昭和	33	荒木紀子
36	昭和	23	川原一美	41	昭和	29	吉村久仁子	45	昭和	33	大郷利治
36	昭和	23	島谷佐太郎	42	昭和	30	久世啓吾	45	昭和	33	神田満枝
36	昭和	23	高柳 清	42	昭和	30	桑野二郎	45	昭和	33	児玉英篤
36	昭和	23	高柳茂雄	42	昭和	30	佐藤哲男	45	昭和	33	佐藤 忠
37	昭和	24	秋元 昂	42	昭和	30	佐藤正美	45	昭和	33	佐藤池鶴子
37	昭和	24	伊藤謙治	42	昭和	30	武内哲夫	45	昭和	33	竹村康子
37	昭和	24	伊藤孝志	42	昭和	30	竹村日出男	45	昭和	33	橋浦十八
37	昭和	24	白土昭伍	42	昭和	30	種谷 豊	45	昭和	33	松岡慶子
37	昭和	24	千葉繁治	42	昭和	30	渡邊 静	45	昭和	33	湊 秀夫
37	昭和	24	松岡邦衛	43	昭和	31	安部 弘	45	昭和	33	安田孝子

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
46	昭和	34	尾嶋司郎	49	昭和	37	森本武男	54	昭和	42	市川春子
46	昭和	34	加藤恭一	50	昭和	38	秋本紀子	54	昭和	42	奥田晶子
46	昭和	34	川畑耕祐	50	昭和	38	飯田武治	54	昭和	42	金森朱美
46	昭和	34	齊藤諒三	50	昭和	38	川田桂子	54	昭和	42	佐藤和恵
46	昭和	34	竹腰時男	50	昭和	38	木原幸弘	54	昭和	42	庄司孝市
46	昭和	34	中村恵子	50	昭和	38	櫻井久子	54	昭和	42	庄司幸子
46	昭和	34	西岡碩枝	50	昭和	38	定塚紀志子	54	昭和	42	高津聖志
46	昭和	34	森 哲朗	50	昭和	38	下田 力	54	昭和	42	高津智子
46	昭和	34	結城澄子	50	昭和	38	高野祐子	54	昭和	42	竹内美千代
47	昭和	35	伊勢谷篤弘	50	昭和	38	武石万里子	54	昭和	42	牧戸宏行
47	昭和	35	市中滋郎	50	昭和	38	野中美代子	54	昭和	42	宮下克彦
47	昭和	35	上村恵子	50	昭和	38	前田一郎	54	昭和	42	森川礼子
47	昭和	35	梅原 弘	50	昭和	38	宮澤英雄	54	昭和	42	山口征司
47	昭和	35	籠瀬信夫	50	昭和	38	脇谷昌志	55	昭和	43	阿部 啓
47	昭和	35	京泉清男	50	昭和	38	脇谷紀代子	55	昭和	43	石橋嘉夫
47	昭和	35	関 誠	51	昭和	39	石塚典子	55	昭和	43	井上みどり
47	昭和	35	並木英明	51	昭和	39	加賀美壯一	55	昭和	43	梅本美智子
47	昭和	35	野田久正	51	昭和	39	島田庄蔵	55	昭和	43	太田晴美
47	昭和	35	橋本喜信	51	昭和	39	島田輝子	55	昭和	43	奥村啓輔
47	昭和	35	室生知子	51	昭和	39	古市泰宏	55	昭和	43	柿崎直和
47	昭和	35	安川正巳	51	昭和	39	横山春江	55	昭和	43	加藤忠明
47	昭和	35	安川俣子	51	昭和	39	塚越由美	55	昭和	43	蔵 礼子
47	昭和	35	若林庸夫	52	昭和	40	小野澤カツ子	55	昭和	43	滝沢春美
48	昭和	36	井上禎子	52	昭和	40	国頭洋子	55	昭和	43	竹原 仰
48	昭和	36	川上 惇	52	昭和	40	是枝 潤	55	昭和	43	志水正明
48	昭和	36	川上康子	52	昭和	40	坂本由美子	55	昭和	43	布施米子
48	昭和	36	絹野浩二	52	昭和	40	中島良信	55	昭和	43	牧野由紀子
48	昭和	36	久保一夫	52	昭和	40	広瀬南海子	55	昭和	43	松野 萌
48	昭和	36	久保春子	52	昭和	40	星野洋子	55	昭和	43	南 菖子
48	昭和	36	中嶋 啓	52	昭和	40	水林須美子	56	昭和	44	加藤正子
48	昭和	36	樋口明彦	53	昭和	41	安西慶子	56	昭和	44	金 知出
48	昭和	36	藤原 忠	53	昭和	41	岩崎孝一	56	昭和	44	酒井綾子
48	昭和	36	前田伸子	53	昭和	41	佐脇幹雄	56	昭和	44	鈴木英世
48	昭和	36	三浦 晋	53	昭和	41	中山裕江	56	昭和	44	都築正明
48	昭和	36	吉田光昭	53	昭和	41	曲淵徹雄	56	昭和	44	綿鍋維男
48	昭和	36	油木劭之	53	昭和	41	南 法夫	56	昭和	44	深澤 宣
49	昭和	37	小川信吾	53	昭和	41	村上則彦	56	昭和	44	山本 恵
49	昭和	37	鈴木国男	53	昭和	41	米沢伸子	56	昭和	44	横山司甫
49	昭和	37	林 幸子	54	昭和	42	安達文三	57	昭和	45	天笠三珠子
49	昭和	37	半澤弥栄子	54	昭和	42	市川ススム	57	昭和	45	伊藤要一

回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名	回	年号	年卒	氏名
57	昭和	45	奥村淳子	64	昭和	52	河村光恵				
57	昭和	45	佐々木由紀子	64	昭和	52	河村 攻				
57	昭和	45	中島和彦	64	昭和	52	西山 祥				
57	昭和	45	古屋典子	64	昭和	52	真船英一				
57	昭和	45	真野由比子	65	昭和	53	井上祐司				
58	昭和	46	加藤健二	65	昭和	53	渡辺茂美子				
58	昭和	46	上田宗央	66	昭和	54	井上彩子				
58	昭和	46	河邊恭吏	66	昭和	54	井上 豊				
58	昭和	46	末木一夫	66	昭和	54	金子美代子				
58	昭和	46	浜谷行高	66	昭和	54	川崎英之				
58	昭和	46	穂苺 茂	66	昭和	54	真船恭子				
58	昭和	46	村上 学	67	昭和	55	田村真弓				
58	昭和	46	村田悦郎	68	昭和	56	大野伸子				
58	昭和	46	吉富恭助	69	昭和	57	小林真弓				
59	昭和	47	駒田由美子	69	昭和	57	佐々木晴代				
59	昭和	47	井本直樹	69	昭和	57	橋本文江				
59	昭和	47	田代眞一	70	昭和	58	工藤知子				
59	昭和	47	三輪 保	70	昭和	58	佐川征博				
59	昭和	47	村上香代子	71	昭和	59	小澤佐余子				
60	昭和	48	加藤マリ子	71	昭和	59	近藤高史				
60	昭和	48	亀田治子	72	昭和	60	内藤 剛				
60	昭和	48	田中加代子	72	昭和	60	平松雄子				
60	昭和	48	田谷栄子	73	昭和	61	加藤秀樹				
60	昭和	48	中西憲幸	73	昭和	61	寺田 孝				
60	昭和	48	山下晴義	76	平成	元年	青山宗夫				
61	昭和	49	梶谷早苗	76	平成	元年	朝倉 渡				
61	昭和	49	清永城右	77	平成	2	出崎克也				
61	昭和	49	富永節子	77	平成	2	下谷明彦				
61	昭和	49	富永英嗣	77	平成	2	増本純也				
61	昭和	49	中西まや子	83	平成	8	水島正明				
62	昭和	50	萩野洋子	87	平成	12	深澤千春				
62	昭和	50	白江秀子	90	平成	15	相原奈々恵				
62	昭和	50	杉山恭子	90	平成	15	奥 千江				
62	昭和	50	西山信右	93	平成	18	天野美緒				
63	昭和	51	小林豊和	(卒業年度不明)			大森としえ				
63	昭和	51	滝沢照美	元職員			中込和哉				
63	昭和	51	中川重仁	旧職員			渡辺和夫				
63	昭和	51	萩野幸司	教員			谷村タケノリ				
63	昭和	51	本郷富江								
64	昭和	52	川添敏司								

平成 18 年度 支部活動報告

1. 支部活動報告

- ① 平成 18 年度首都圏支部定期総会
平成 18 年 6 月 3 日(土) ルビーホール
- ② 第 1 回役員会
平成 19 年 1 月 29 日(月) 第一製薬会議室
- ③ 第 1 回幹事会
平成 19 年 3 月 6 日(火) 第一製薬会議室

首都圏支部資産状況

(平成 19 年 3 月末現在)

- 1. 株券
北陸電力 3,785 株 (額面 500 円)
- 2. 中期国債ファンド
714,502 口 (丸八証券)
- 3. 普通預金
688,551 円 (北陸銀行)

物故者

(慎んでご冥福をお祈り申し上げます。)

- ㊥ 22年卒 時 沢 利 尚 (17.11.29)
- ㊦ 18年卒 石 倉 末 作 (18. 6.24)

平成 18 年度会計報告
(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 28 日)

収 入 の 部				単位 円
予 算		実 績		
項 目	金 額	項 目	金 額	
繰 越 金	88,660	繰 越 金	88,660	
年 会 費	400,000	年 会 費	312,000	
総 会 費	600,000	総 会 費	390,000	
株 式 配 当	170,000	株 式 配 当	176,004	
預 金 よ り	241,340	預 金 よ り	520,000	
そ の 他	0	受 取 利 息	302	
合 計	1,500,000	合 計	1,486,966	

支 出 の 部				単位 円
予 算		実 績		
項 目	金 額	項 目	金 額	
総 会 費	500,000	総 会 費	398,613	
会 合 費	50,000	会 合 費	11,196	
交 際 費	10,000	交 際 費	0	
事 務 通 信 費	200,000	事 務 通 信 費	274,104	
同 好 会 補 助 費	64,000	同 好 会 補 助 費	64,000	
会 報 発 行 費	550,000	会 報 発 行 費	532,309	
出 張 費	50,000	出 張 費	61,350	
貸 し 金 庫 費	21,000	貸 し 金 庫 費	21,000	
事 務 局 費	52,500	事 務 局 費	52,500	
繰 越 金	2,500	繰 越 金	71,894	
合 計	1,500,000	合 計	1,486,966	

平成 19 年度予算(案)
(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
繰 越 金	71,894	総 会 費	500,000
年 会 費	400,000	会 合 費	50,000
総 会 費	600,000	交 際 費	10,000
株 式 配 当	170,000	事 務 通 信 費	200,000
預 金 よ り	258,106	同 好 会 補 助 費	64,000
		会 報 発 行 費	550,000
		出 張 費	50,000
		貸 し 金 庫 費	21,000
		事 務 局 費	52,500
		繰 越 金	2,500
合 計	1,500,000	合 計	1,500,000

—— 編集後記 ——

会報第52号をお届けしました。新しい話題を盛り込んだ会報づくりをめざしておりますが、それには会員みなさまのご協力とご支援（ご寄稿して下さるのが一番です）が欠かせません。俳句や川柳、短歌などをご趣味にしておられる方、得がたいご体験をされた方、ご専門分野のことをご紹介くださる方（総会の話提供もぜひ、お願いします）等々、事務局や役員（各学年ごとに幹事がいます）までお知らせください。また、上記に該当するような方々をよくご存じの方も大歓迎です。末筆ながら、今号にご協力くださった方々に厚く御礼申し上げます。

（編集者 ㊦ 柿崎 直和）

事務局 アサヒ興業（宇田川：uda@pop-asahi.co.jp）

役員 柿崎：kakizaki-nao@hh.en-net.ne.jp ほか

—— お願い ——

首都圏支部では本部の永年会費とは別に独自の活動維持の為、会員の皆様から年間1,000円の会費を徴収しています。ご理解とご協力をお願い申し上げます。